



環境サロン9月の予定

8月はすでに2回のサロンを実施しました。第3回の池田良鶴さんによる食育に関するお話では、9-10歳までに、生きる上で基本的な食生活に関して、子ども達に自ら弁当を作らせる日を設けて、自主性や、生きる力を育むのに非常に有効であることを学びました。http://ubekuru.com/blog_view.php?id=3136

第4回の河口隆さんによる「スマホ世代のためのネットリテラシー」では、情報環境問題の一環として、非常に重要な課題であるが、教える側の経験も乏しく、まだ正解が見つかっていない状況であることが分かりました。また基本的な礼儀や倫理感がベースにあるという議論もありました。

http://www.ubekuru.com/blog_view.php?id=3163

8月27日は川辺真也さんの「出来ることをやってみよう！まちづくり・ひとづくり～地域や人との連携が様々な効果を生む～」です。9月の予定は以下の第6回、7回です。興味のあるサロンにどうぞお気軽にご参加ください。高校生以下は無料です。

9月10日(木) 18:00～

場所：まちなか環境学習館

「心の教育の推進」松岡修司さん(山口県教育庁義務教育課)

学校教育においては、道徳教育の強化が行われつつあるようです。基本的な礼儀や倫理が、持続可能な社会を作る上でも非常に重要な課題です。国や県ではどのような検討がされているのか、また子ども達の心の安定にどのような対策が考えられているのか、議論を深めます。

参加料：200円(ただし100エコハ進呈)

9月17日(木) 18:00～

場所：まちなか環境学習館

「ときわ動物園に関わってきて」白須道徳さん(うべ環境コミュニティー理事)

カッターの育ての親として知られる白須さんに、長年ときわ動物園の管理に携わってこられた経験や苦労話、リニューアルのねらいなどを話していただきます。

参加料：200円(ただし100エコハ進呈)

環境活動グループの紹介

宇部市地球温暖化対策ネットワーク (UNCCA: アンカ)

宇部市地球温暖化対策ネットワーク(UNCCA: アンカ)は、低炭素社会の形成を目指し温室効果ガス削減に向け、産・官・学・民の相互理解と協力のもと(宇部方式)、地域における地球温暖化対策を協議、実践し、環境共生都市の実現を目的としています。現在の会員数は、団体会員108団体、個人会員72名となっています。

◆継続して行っている活動は次の通りです。

- ①各種イベントでの啓発PR活動
- ②省エネ教育推進および小中学生を対象とした地球温暖化対策環境講座
- ③環境にやさしい交通づくり推進活動
- ④カーボン・オフセット推進活動
- ⑤グリーン電力証書の購入仲介

◆今年度の補助受託事業は次の5事業です。

- ①夏休みハイブリッドミニソーラーカー工作教室
 - ②夏休みエコ学習トランク環境教室
 - ③スタディツアー推進事業
 - ④エコレンジャープロジェクト
 - ⑤宇部地域におけるエコドライブ推進活動
- 現在会員を募集しています。お問い合わせは下記まで。

TEL・FAX：050-1298-4065

E-mail：ubeondankanet@ybb.ne.jp

ソーラーカー
工作教室



宇部市環境学習ポータルサイト

「うべっくる」



うべっくる

検索

<http://www.ubekuru.com/kuru.com>

宇部市のいろいろな環境学習拠点の紹介、環境関連のイベントのお知らせなど、随時更新しています。

「銀天エコプラザ」の詳しい紹介もあります。

facebookやTwitterへもこちらからアクセスできます。

まちなか環境学習館や環境に関することについて、ご意見・ご質問等、お気軽にお寄せください。ポータルサイト内の問い合わせ欄やブログ、フェイスブックのコメント欄もご利用ください。

環境歳時記（9月13日）：

沼津・石油コンビナート誘致反対集会に2万5千人(1964年)

静岡県沼津市、三島市、清水町は伊豆半島の西側付け根に位置し、北は富士山、東は箱根が位置し、緩やかな丘陵地帯から駿河湾に至る土地で東海道線、東海道新幹線、国道1号線、東名高速道路、新東名高速道路が通る交通の要所地帯でもある。

また富士山などからの伏流水など豊富な水に恵まれている。

こうした自然の豊かな恵みに目を付けた石油コンビナート進出計画がかつてあった。

昭和38年12月14日、静岡県は三島市、清水町、沼津市におよぶ石油コンビナート建設計画を発表した。しかし当時三重県四日市などの石油コンビナートでは住民が煤煙や排水で苦しんでいた。

計画を知った三島市民はさっそく2台のバスを仕立てて四日市に調査に出かけてその厳しい現実を目の当たりにし、コンビナート進出反対の意を強くした。

現地説明会では県、企業に対して四日市調査をして勉強した市民の厳しい質問が県や企業に浴びせかけられた。このような中、県は国にコンビナートが建設されたことを想定した公害調査を要請し、当時の権威者を集めた黒川調査団を派遣し、現地調査を行った。一方このような県の姿勢に疑問を持った市民は三島市長に独自の調査を要請し、市長は国立遺伝学研究所の松村博士などに調査を依頼した。松村博士を長とする松村調査団には遺伝学研究所の先生、そして地元工業高校の先生生徒などが参加し、地元根を張った地道な調査を積み重ねて資料づくりをおこなった。

松村調査団は昭和39年5月18日、中間報告を出した。そのまとめは公害は避けられないというものであった。一方黒川調査団の報告は公害は避けられるというものであった。これらをもとに圧倒的な市民の反対を背景に三島市長は5月23日、受け入れ反対を決意し、市議会も受け入れ反対を決議した。

この後、コンビナート主体を沼津市の方に話しが進んだ。当時の沼津市長、市議会ともコンビナート誘致に積極的であり、黒川調査団の報告書を沼津市の全戸に配布するなりして住民の懐柔策を進めた。

しかし、その前に松村、黒川調査団は東京で対決し、なんと地道な調査を行った松村調査団に黒川調査団は不備を指摘されるなど、いかにも誘致ありの内容が露呈してしまった。

地元沼津では四日市での現地調査、そして松村調査団の報告をもとに先生方も加わり何百回となく勉強会を繰り返し、このままでは公害は避けられないとの民意が醸成されていった。加えて反対派の粘り強い議会工作も進み、徐々に誘致反対の議員も増えつつあった。

そのような中、反対派は大きな集会を計画し、それは1964年9月13日、沼津市立第一小学校での石油コンビナート進出反対沼津市民総決起大会となった。

三島市中郷地区の農民の耕運機30台、清水町民も加わって、「みんなの力で公害に反対し美しい郷土沼津を守ろう」のスローガンのもとに25,000人もの大集会となった。集会後市内へとデモ行進に移ったが最後のグループが校庭を出た時はすでに1時間を経過していた。

その月の17日には沼津市長は知事に企業誘致断念を報告した。そして同じく24日には定例県議会で知事は「地元の反対で建設は事実上困難となった」との所信表明をしてこのコンビナート誘致は幕を閉じた。

この平凡な市民一人ひとりが主役の三島・沼津の運動は、住民が初めて行政を動かして開発計画を中止させ、住民運動勝利のさきがけとなった教訓的な運動であった。

西村

第17回 まちなかエコ市場

9/12(土)10:00~15:00

楽しく学べる「まちなかエコ教室」や「生物多様性クイズラリー」新鮮野菜の軽トラ市やフリーマーケットの出店・出展ブース等、盛りだくさんな内容で、みなさまのお越しをお待ちしております。

まちなか銀天 おそうじ隊募集！

毎月最終日曜日にまちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードなどおしゃべりしながら楽しく掃除しています。次回は9/27(日)15:00~終わったら参加者みなんでお茶会をします。一緒に掃除してみませんか？



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110

E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時~21時

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)